

事後評価書

事業名	一級河川矢谷川 統合河川整備事業		事業区分	河川事業	室名	河川・砂防室
事業概要	工期 (下段当初)	平成 5年～平成14年	全体事業費 (下段当初)	3,013	百万円 (負担率: 国1/2 : 県1/2 : 他)	
		平成 5年～平成14年		2,400	百万円 (負担率: 国1/2 : 県1/2 : 他)	
事業目的及び内容	矢谷川沿川の浸水被害軽減を目的に、河川の拡幅等の改修により流下能力を確保し、治水安全度の向上を図る。 【事業内容】 河川改修 (堤防・護岸1,480m、道路橋4橋、農業用取水堰1基)					
1・事業の効果						
①事業効果の発現状況 事業完成後5年経過した。計画規模相当の洪水は発生しておらず、完成後の浸水被害はこれまでのところ生じていない。一方、アンケート結果によると住民の安心感の向上、満足度が得られていると考えられる。 治水安全度の向上により土地の利用度が上昇し、商業店舗の立地や住宅の建設促進などが図られ、街の活性化につながった。						
②事業効果の評価 費用対効果を分析した結果、B/Cは約1.25となりました。						
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化						
① 環境への配慮 現況法線の利用、護岸勾配の緩斜面化(2割)、多自然護岸の採用(カゴマット工法) 縦断、横断方向の連続性の確保(落差工を設置しない、堰には魚道を整備) 事業中には、早期植生を図るため、現地の流用土をカゴマットに部分的に目詰め						
② 環境の変化 植生の多様化が図られ、魚類には良好な環境となった 二次的な効果として、ヨシ類の植生による水質浄化作用も期待						
3・事業を巡る社会経済情勢等の変化						
①土地利用の変化 治水安全度の向上により、市街地化が促進され、商業店舗の立地や住宅の建設が進んでいる。						
②社会ニーズの変化 社会ニーズの多様化や変化により憩いや癒しの場としての機能を有している。						
4・県民の意見						
①アンケート結果 アンケート調査結果では治水事業に対して一定の評価があった。 なお、計画相当規模に対する洪水が発生していないため、今後の評価に対しては変動する可能性がある。						
5・今後の課題等						
①より適切な事業計画の策定 当初事業費に対して、用地費が大きく増加したことから、用地等の単価については、既存データのみ reliant ことなく、計画策定時に鑑定を依頼するなど、適正な事業費の把握に努める。						
②適切な維持管理 植生の復活化を図ることにより、ヨシ類やガマなどの植生が繁茂し、多様化が図られた一方、これらの植生に対して草刈りなどにより適切に維持管理していく必要が生じている。しかし、維持管理の予算が厳しい状況にあることから、地元住民、NPO等が積極的に維持管理に携わって頂ける仕組みづくりを行い、地域機関、地元住民と協同で草刈りを行うこと等、維持管理費の効率的な執行のもと適切な管理に努める。						